

## 目 次

「図書館」と「ライブラリー」 福士 秀人…………… 1	図書館本館新棟オープン！…………… 6
寄贈図書一覧（平成26年1月～6月）…………… 3	お知らせ…………… 8

## 「図書館」と「ライブラリー」

図書館長 福 士 秀 人



4月から図書館長を拝命しました。幼い頃から本が大好きな私にとっては夢のような役職です。しかし、いざ図書館長として仕事を始めると戸惑うことばかりです。図書館をめぐる昨今の状況は厳しく、楽しく本に囲まれていれば良いというものではありません。とはいっても、図書館は大学にとって「知の拠点」であることに変わりはなく、時代に応じた在り方を探り、受け継いでいくことが大事だと思いつながりながら、日々、図書館の一階で暮らしております。より多くの人に使ってもらえるように図書館はどんどん新しくなっています。今年は「ラーニング・コモンズ」が新しくなりました。これも次世代の図書館への道筋です。

ところで、なぜ「ラーニング・コモンズ」はカタカナなのでしょう。日本語にすれば「共通学習室」でしょうか。ここで commons を辞書で引くと、単数扱いで「(特に大学の) 大食堂、学生食堂」という和訳がでできます。だからといって「ラーニング・コモンズ」が「学修大食堂」というのも変な話です。ここでの「コモンズ」は common の複数形なのか

もしれません。そうすると a common で「共有地」という意味がでできます。そしてアメリカでは the common ないし the commons が「共有地や公有地」の意味だとされています。ということは「ラーニング・コモンズ」というからには一カ所ではなく、複数箇所なければいけないかもしれません。これまで、岐阜大学図書館の「ラーニング・コモンズ」は一カ所でしたから、今回の増設でようやく本来の意味を満たすことができたことになります。

さて、このように英語やヨーロッパの言語に由来する日本語では、しばしば意味の食い違いがでできます。せっかくですから a library について考えてみたいと思います。

「図書館」の英語は library、いえ、a library が「図書館」の意味だということを知ったのは、いつでしょうか。では、この a library が「ライブラリー」になるとどのような意味をもつのでしょうか。

私はウイルス学を専門としていますが、ウイルス学を含む生物学にも「ライブラリー」がでできます。説明が難しいのですが、ある生物の DNA を取り出

してきて、適度な大きさにし、それを「ベクター」という特別な DNA と繋ぎ合わせ、その繋ぎ合わせた DNA をさらに大腸菌という細菌や、細菌のウイルスであるバクテリオファージに入れると、生物学ではこれを「遺伝子ライブラリー」とか「ゲノムライブラリー」というのです。

一方、コンピュータの世界にも「ライブラリー」があるのをご存知でしょうか。コンピュータはソフトウェアがなければ動かないし、使えないことはご存知ですね。このソフトウェアは「プログラム」ともよばれ、この「プログラム」を作ることをプログラミングといいます。プログラミングにはある種の「言語」が使われます。この言語は「コンピュータ言語」と呼ばれます。不思議なことに「コンピュータ言語」といつつ、コンピュータはこの「コンピュータ言語」を直接には理解できません。その理由はここでは省きます。さて、このコンピュータ言語でプログラミングをするときに「ライブラリー」がでてきます。この「ライブラリー」もプログラムです。いろいろな作業があったとしても、共通するところがある場合が多いでしょう。また、新しいプログラムをつくるにしても、全てを新しく作る必要はなく、それまでにつくられたプログラムを活用の方が便利です。プログラミングの時に使われるこのようなプログラムはひとまとめにされ、「ライブラリー」と呼ばれています。

なぜ、生物学やコンピュータ言語では libraries を「図書館」と言わずに「ライブラリー」とカタカナで呼ぶのでしょうか。英語ではどれも libraries です。「遺伝子ライブラリー」を「遺伝子図書館」と呼んでもかまわないだろうし、プログラミング用のライブラリーは、そのまま「図書館」にしても良いように思いませんか。

ただ、別の視点から考えると「図書館」には建物を含む確固たる印象があるのかもしれませんが。「遺伝子ライブラリー」は物理的には単なる液体で、小さなプラスチックの入れ物に入っているだけですから、「図書館」といわれても、それは違うといわれそうです。プログラミング用の「ライブラリー」に

いたっては実態はなく、あるとすればコンピュータの中に入れられた電気信号ですから、これも「図書館」とは言いがたいものです。

ところが、この「図書館」にも大きな変化が起きていることはご存知でしょうか。いわゆる「電子ジャーナル」や「電子本、電子ブック」です。これらは「本」のような実態はなく、コンピュータの世界に存在する電気信号のかたまりです。そうなれば、建物としての「図書館」は必要なくなり、世界のどこかにコンピュータ（この場合は「サーバー」とよばれるのでしょうか）があれば良いことになってしまいます。私の大好きな図書館はどこへいってしまうのでしょうか。

実は、この図書や論文の「電子化」は便利なのですが、「図書館」にとっては非常に大きな問題なのです。図書館が集めてきた本が全て「電子化」されれば、「図書館」という器は必要なくなるのでしょうか。紙の本が残るとしても、全ての大学や町に紙の本を置く必要があるのかという議論が出てきます。

「電子化」された本や論文は便利に使えます。しかし、電気がなければ無いのと同じになります。紙の本は重かったり、調べるのが大変だったり、いろいろ不便なところもありますが、電気を必要とせず、保存さえしっかりすれば、数百年以上にわたって存在できます。電子化された本と紙の本は共存するものといえます。実際、現在の図書館は「電子化」された「本」と紙の本をうまく共存させ、使いやすく提供する場となっています。

ところで、日本語で「図書館」やライブラリーが幾分、区別されて使われているのに、なぜ英語圏の人たちは libraries ですますことができるのでしょうか。いろいろな考え方があるとは思いますが、「情報」というもう一つの不思議な言葉を使えるかもしれません（情報、information、もその意味や語源を考えると非常に興味深い言葉です。調べてみてはいかがでしょう）。libraries は情報を集めた場所や集めたものとかんがえれば良いのでしょうか。紙に文字で書かれた情報をあつめたのが「図書館」（この

ごろはビデオ、DVDなどの画像情報もあるので、文字にはかぎらないのですが)。生物の情報を全て含み、必要な生物情報（実際には遺伝情報というべきですが）を取り出しやすくしたのが「遺伝子ライブラリー」。そして、プログラミングに便利な情報をつめたのが、プログラミング「ライブラリー」。このように考えれば、それなりに納得できる気がしますが、いかがですか。

振り返ってみれば、図書館は本の収集を通して人々を集めてきました。本を介して人々が図書館に集い、対話をしてきたのではないのでしょうか。「ラーニン

グ・コモンズ」は、このように考えれば、本来、図書館が担っていた役割を現代風にした空間といえるかもしれません。岐阜大学図書館が増築され、ラーニング・コモンズも広くなり、より使いやすい場となりました。多くの人々が図書館に足を運び、本を読み、語らい、図書館をさらにいっそう活用していただくことを切に願っております。

（ふくし ひでと：学術研究・情報担当理事、副学長、図書館長、地域協学センター長、応用生物科学部教授）

## 寄贈図書一覧（平成26年1月～6月）

平成26年1月～6月に図書館にご寄贈いただいた図書の中で、本学教職員が著作・編集・刊行等に関係した図書を掲載します。ご寄贈いただき、ありがとうございます。引き続き、ご寄贈をお願いいたします。

### ●山崎仁朗（地域科学部）

- ・日本コミュニティ政策の検証：自治体内分権と地域自治へ向けて

【本館3階 318.8||Nih】

#### ～内容紹介～

1970年代から旧自治省がはじめ、その後、全国に普及したコミュニティ政策の意義と課題について、事例研究やアンケート調査によって検証し、今後の自治体内分権や地域自治のあり方を国際的な視野で考察した本です。

### ●楠田哲士（応用生物科学部）

- ・ぎふの淡水生物をまもる：岐阜の淡水生物保全BOOK

【本館3階 481.75||Gih】

※内容紹介は著者または編者本人による

#### ～内容紹介～

岐阜市や近隣エリアで、淡水生物の保全や調査研究に携わる方々に、淡水生物の魅力やその危機、そして保全活動の最前線をわかりやすく紹介していただいたフリーの普及啓発本です。PDF版も公開（<http://blogs.yahoo.co.jp/zooreplab/56133878.html>）。

### ●橋本永貢子（地域科学部）

- ・中国語量詞の機能と意味：文法化の観点から

【本館3階 825.2||Has】

#### ～内容紹介～

中国語において、本来名詞や動詞であった語彙が、「量詞」（日本語でいう「助数詞」）という一つの文法カテゴリーを形成した状況、及び、更に機能的な成分として発展し今日の用法に至った過程を記述した本です。

## 図書館本館新棟オープン！

平成25年度から長らく工事を行っていた図書館本館の新棟が遂に完成し、7月1日にオープンしました。新棟は3階建てで、ラーニング・コモンズ、閲覧スペースと書庫とで構成されています。新棟に書庫ができたのに合わせて、これまでの資料の配置方法を変更し、より利用しやすい図書館を目指しました。

### 新棟ってどこにあるの？

新棟は、2・3階の南側が全面ガラス張りとなっている、図書館本館西側部分です。既存の図書館の建物とつながっており、どの階からも新棟との行き来ができます。

### 新棟には何があるの？

新棟には、ラーニング・コモンズ（2階）、閲覧スペース（3階）と書庫（全階）があります。

書庫には、以下の資料が収められています。

- ・ 積層書庫の資料  
雑誌（バックナンバー）、紀要、洋書など
- ・ 改修前の図書館本館2階の資料  
参考図書の一部、二次資料



### どこが変わった？ 資料の配置

#### 【雑誌】

積層書庫から新棟へ移すに当たって、雑誌の分類方法を変更しました。

和雑誌・洋雑誌の区別はそのままに、大きく「人文社会系」と「自然科学系」の2種類に分けました。並べ方については、以前と同じで雑誌名の五十音順またはアルファベット順です。

それに伴い、書架の見出しも一新しました。和雑誌、洋雑誌ともに、人文社会系はオレンジ色、自然科学系は緑色となっています。

#### 【洋書】

今まで積層書庫と集密書庫に分かれていた洋書を、すべて新棟3階へ移しました。新しい書架は、積層や集密の書架に比べ、棚1段につき5cm程高くなったため、以前は寝かせていた図書を、背表紙が見えるように立てて並べています。

また大型本は、洋書の並びの先頭へ持ってきて専用の見出しをつけるとともに、蔵書検索結果の所在の項目でも「洋書大型本」の配架マップを確認できるようになりました。

〈書架見出し（雑誌）〉



人文社会系

自然科学系

〈書架見出し（洋書）〉



それでは新棟の中を、2階→3階→1階の順にご紹介します。

### 【新棟2階】

南側：ラーニング・コモンズ

いろいろな組み合わせが可能な可動式の机・椅子やホワイトボードが置いてあり、仕切りのないグループ学習室としても使えます。

予約なしで自由に使えるプロジェクターが2台あります。

また、足元にコンセントがあり、無線LANを使える環境が整っていますので、ノートパソコンを持ち込んでの学習も可能です。

北側：書庫

図書館本館2階・旧積層書庫2階にあった雑誌のうち、自然科学系の洋雑誌を置いています。



新棟2階ラーニング・コモンズ

### 【新棟3階】



3階閲覧席

南側：閲覧席

既存の閲覧席よりも1人分のスペースに余裕があり、教科書やノートなどを広げて学習するのに十分な広さがあります。基本的に、個人で静かに学習することを想定した場所です。また、2階のラーニング・コモンズ同様、足元にコンセントがあり、無線LANを使える環境が整っています。

北側：書庫

洋書（大型本含む）専用の書庫です。

### 【新棟1階】

すべて書庫となっています。

配架資料は次の通りです。

- ・人文社会系の和雑誌・洋雑誌
- ・自然科学系の和雑誌
- ・紀要・報告書
- ・二次資料
- ・参考図書
- ・統計
- ・集密3の一部（請求記号が000～235の図書）

※集密書庫と新棟をつなぐ通路を作った際に撤去した書架に入っていた図書です。

いずれ集密書庫に戻す予定です。



新棟1階書庫

## /// お知らせ ///

### 視聴覚コーナーを利用できます

図書館本館の増改築工事のため閉鎖していた視聴覚コーナーが、2階に場所を移して10月から利用できるようになりました。

DVD、Blu-ray、VHS、CD（CD-ROM）などの視聴覚資料を館内で視聴できます。

従来通り、個人用の席が4席あります。2人以上での視聴を希望される場合は、グループ学習室をご利用ください。ご自分のパソコンや、図書館の教育用パソコンでの視聴も可能です。

視聴覚資料ご利用の際は、視聴したい資料のケースを持って2階カウンターで利用手続きをしてください。ヘッドホン・リモコン・資料をお渡しします。



### 増改築に伴う資料移動先一覧

図書館の増改築に伴い、以下の場所へ資料を移動しました。移動先の名称は、蔵書検索結果の所在の項目に表示されるものです。（ ）内は実際の配架場所です。

#### 【図書館本館2階から移動した資料】

- ・ 岐阜県関係の資料 → 図本館-1階集密書庫への通路（仮）※一時的な配架場所
- ・ 参考図書（事典類） → 図本館参考（新棟1階書庫）
- ・ 二次資料、JIS → 図本館二次資料（新棟1階書庫）
- ・ 洋雑誌 → 図本館自然科学系（新棟2階書庫）または図本館人文社会系（新棟1階書庫）
- ・ 和雑誌 → 図本館自然科学系（新棟1階書庫）または図本館人文社会系（新棟1階書庫）

#### 【積層書庫から移動したもの】

- ・ 積層書庫2階の洋雑誌 → 図本館自然科学系（新棟2階書庫）
- ・ 積層書庫2階の和雑誌 → 図本館自然科学系（新棟1階書庫）
- ・ 積層書庫3階の雑誌 → 図本館人文科学系（新棟1階書庫）
- ・ 積層書庫3階の紀要など → 図本館紀要・報告書（新棟1階書庫）
- ・ 積層書庫4階の洋書 → 図本館洋書、図本館洋書大型本（新棟3階書庫）

#### 【集密書庫から移動したもの】

- ・ 集密3の一部（請求記号000～235） → 図本館集密3（新棟1階書庫）※一時的な配架場所
- ・ 集密洋書 → 図本館洋書（新棟3階書庫）
- ・ 集密洋書大型本 → 図本館洋書大型本（新棟3階書庫）